



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

97.4.10 No. 4578

# ますます丁総連崩壊の危機 深まるR総連の危機

その1

長野、高崎、吹田、岡山、東京・・・貨物を中心とした相次ぐ「平成採用者」の脱退。広島、岩国を中心とした、JR西労からの四十余名の脱退は、さらに拡大する動きにある。

東労組では、長野で地本副委員長呼びかけた「JR東日本虫下しの会」を巡って、「組織破壊行為」だとの大騒ぎ。新潟では、サークル協・園芸部総会の呼びかけ文が、これまた、「組織破壊行為」だと認定され、新たな粛正劇が始まっている。

JR総連総体が、「組織破壊攻撃」に戦々兢兢々として、ゲシユタボ化している。

## 「虫下しの会」

長野において大騒ぎとなったのは、「虫下しの会」の「新春パーティー」開催の計画と、「新しい時代にダイナミックな創造を」という文章だ。

「虫下しの会なる会はどういう会なのか」「新しい時代にダイナミックな創造をなす文章については客観的に見て分派活動とみなされても仕方がないと考えるかどうか」という革マルの追求に対して、これを呼びかけた地本副委員長は、「旧組織の親睦を深めるための飲み会的なものであり、決して分裂することを目指すのではない、内容をめぐる分裂策動的だと言われればそのとおり」「分派

活動と見られても仕方がない」という主旨の答えをした。

そして、この「虫下しの会」を地本三役会議、執行委員会で「分裂策動」「組織破壊策動」と断定し、二月九日に「結成以来最高の四八〇名」で、「長野地本組織強化緊急大集会」を開催するという事態にまで至っている。

## 園芸部の反乱!

反乱!

新潟における、サークル協・園芸部総会問題とは、東労組新潟運転所分会における、園芸部総会開催についての揭示に対して、「この揭示は、文章的には支離滅裂ではあるが、全体的にその内容が比喻をふんだんに使っている、曖昧さを用いながら、執行部に対する批判文書となつていると言わざるをえない」、「分会執行部は、全員が「問題あり」に意見の一致を確認した」というもの。

揭示文の、「誰がみても、疑問を感じる」ことの享受は、自ら辞退することが肝要。「京の都だけが都でない。関東武士も独自の都を形成。我々は、考へに自信を持ち、主体性をもって行動すべき」「この春は、一体、いつ来るのだろうか」「偽多数勝者正当化の論理は、客観化するにほど遠い」云々、対して革マルは、異常なまでの反

応をしている。

「今のままの新潟運転所では、春もなければ、夜明けもなければ、明るい職場でもないというのか」「批判と言うよりは、誹謗に値する」「執行部に対する批判と同時に挑戦と言わざるをえない」・・・「園芸部は、

JR東労組新潟運転所分会サークル協の中の一クラブであり、決して、組合組織とは無縁ではない」「執行部は組織問題としてとらえた以上、全組合員に明らかにし、問題認識の一致を図らなければならない」と。

## 流れは止まらない

長野での「JR東日本虫下しの会」問題、新潟でのサークル

協園芸部総会の揭示問題。あきらかな事は、あっちこちで、「組織問題」が噴出しはじめているということだ。

昨年春闘最中のJR東労組本部の分裂、委員長・管家以下、旧鉄労系執行部の放逐、グリーンユニオンの結成。いや、御用組合の連中ばかりではない、引き戻されたとはいえず、高崎車掌区では、公然と青年労働者が、JR東労組から国労へ決起した。革マルがいくら、暴力を背景とし、内部粛正をしようとも、もはや、この流れはおしとどめることはできない。

それは、JR東労組という組織は、組合員の信頼の上に成り立つ組織ではないからだ。背後にある当局の力がそうさせているだけなのだ。「悪が栄えたためしはない」のである。

(以下、その2へ続く)

### 《当面するスケジュール》

#### 特措法改悪阻止緊急国会闘争

- 4月11日(金) 18時～
- 日比谷野外音楽堂
- 反戦共同行動委員会
- ◆千葉駅4番線 17時09分 快速列車最後部

#### 沖縄は告発する! 特措法改悪反対東京集会

- 4月17日(木) 18時～
- 東京・芝公園(浜松町下車)
- 主催: 反戦地主会/違憲共闘会議 / 一坪反戦地主会

#### 【第1陣】

千葉駅10番線 16時44分快速列車最後部

#### 【第2陣】

千葉駅8番線 17時25分快速列車最後部